

平成26年度第1回 倫理審査委員会

平成26年5月23日

受付番号26-1

<p>申請者</p>	<p>診療部長 医療社会事業専門員 客員研究員</p>	<p>村杉 謙次 眞瀬垣 実加 佐藤 祐樹</p>
<p>課題名</p>	<p>触法精神障害者及びその家族における病いと触法行為の関係性</p>	
<p>研究の概要</p>	<p>医療観察法の対象患者は、心神喪失あるいは心身耗弱状態で重大な他害行為を行った者で、刑事司法手続きの過程で責任無能力又は限定責任能力と判断された者である。地方裁判所の審判により処遇を命じられ、指定入院医療機関による入院処遇又は指定通院医療機関による通院処遇が開始される。一般的に犯罪には刑罰が下され、病気には医療が提供される。しかし、医療観察法においては、触法行為を病的状態であったが故の行為であるにとらえ、刑罰ではなく医療による処遇がなされる。その為、対象患者及びその家族は病と触法行為の関係性について様々な感情を抱き、また、そのとらえ方が社会復帰にも影響を与えることを臨床において経験してきた。本研究では、司法による判断の下に医療を受けている患者及びその家族が、実際には病をどうとらえ、触法行為をどのようにとらえているかについて、対象者及びその家族を対象に半構造化面接を個別に行い明らかにし概念化していく。</p>	
<p>判定</p>	<p>条件付承認</p>	

平成26年度第2回 倫理審査委員会

平成26年7月25日

受付番号26-2

申請者	看護師	藤牧 聖子
課題名	医療観察法病棟に入院している女性対象者への化粧療法による心理的变化	
研究の概要	<p>心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律(以下、医療観察法とする)の入院処遇の女性対象者は、入院前には日常的に化粧を行い、化粧用品が手軽に手に入る生活を送っていた人がほとんどである。医療観察法病棟の特殊性により、化粧品の持ち込みに関しては、化粧水や乳液等のスキンケア用品のみ許可されている。それ以外は様々な鏡付きのケースによる他害行為への危険性、強い香料による刺激、娯楽品とみなすことによる治療環境への影響という観点から制限されている経緯がある。しかし、化粧療法は、対人的効果・メンタルケア効果・モチベーションアップ効果等を得ることができることとされ、医療観察法病棟においても、化粧の導入が安全性を十分配慮した上で日常行うことができれば、自信の獲得等の効果が期待され、治療意欲の向上に繋がると考えられる。そこで本研究を行い、化粧療法を女性対象者の治療プログラムとして導入し、治療への内的動機付けや自己効力感の心理的变化を考察し、今後のプログラムの正式導入および持込可能・不可能物品について再検討したいと考えた。</p>	
判定	承認	

受付番号26-3

申請者	看護師	岩崎 いづみ
課題名	精神科急性期病棟における急薬で再入院した患者への服薬指導の効果	
研究の概要	<p>精神疾患の患者にとって、服薬を継続することは非常に重要である。しかし、入院患者の中には退院後の服薬管理不足により再入院となる患者が多い現状がある。現在、服薬行動の評価・判断は、受け持ち看護師を中心にチームカンファレンスを行い、個々の患者への指導に結び付けているが、受け持ち看護師による個人差が見られる。そこで今回、入院から3ヶ月間で個別指導が出来るよう服薬指導プログラムを作成する。そして、このプログラムの利用によって患者が服薬の必要性をどのように捉え、理解できたかを評価し、プログラムの有効性について明らかにする。</p>	
判定	承認	

受付番号26-4

申請者	看護師	鈴木 小絵
課題名	退院の決心が難しかった長期入院患者が退院に至った要因	
研究の概要	<p>当病棟は精神科慢性期病棟であり、入院期間 1 年上の患者が 68 %で、いわゆる社会的入院患者が多くを占めている。ほとんどの患者が病状は安定しており、退院可能ではあるが、入院期間の長期化に伴い家族の受け入れが困難であったり、患者本人にとって病棟が生活の場となっており、「退院するのは不安である。」と退院を希望しない意向を示している。その様な状況の中で、1 年以上の入院を経て退院に至った患者は過去 5 年間で 19 名いた。そこで、退院に至った患者が、どの様にして退院の意思決定ができたのか、要因が何であるのかを明らかにする。</p>	
判定	承認	

受付番号26-5

申請者	看護師	内堀 由梨
課題名	<p>精神発達・自閉症・強度行動障害のある 20 代男性の安心の場を獲得するための取り組み ～昔のエピソードの中から安心できる情報を取り入れて～</p>	
研究の概要	<p>不安が根底にある患者の安心の場を獲得する取り組みを通して、安心を獲得するまでのプロセスを明らかにする。昔のエピソードや、現在の情報を取り入れて、プラン立案、ケアを実施することで、患者が安心を得ることが出来たのか、また安心の場が獲得できたのか明らかにする。</p>	
判定	承認	

受付番号26-6

申請者	看護師	森泉 奈津江
課題名	3 歳をすぎて食事を開始した精神遅滞のあるダウン症児への経口摂取の取り組み	
研究の概要	<p>正しい摂食につなげるため、摂食機能や発達を評価し、患児に合わせた間接訓練・食事形態・摂食方法を多職種で検討し実践した。摂食機能訓練を習慣づけることで開始からの変化を明らかにし、摂食機能向上につなげたい。</p>	
判定	承認	

受付番号26-7

申請者	看護師	中島 美穂
課題名	認知症患者に対する足趾マッサージの効果 ～転倒予防に向けた基礎データとしての足趾マッサージ～	
研究の概要	認知症患者は、思考・判断力・注意の障害があり、高齢による身体的機能の低下により視力障害・平衡バランスの低下等がみられ、また向精神薬内服による副作用から転倒リスクが非常に高い。そこで、転倒予防策には体操・フットケアなど様々な方法があるが、フットケアの一部としての足趾マッサージを認知症患者に対して実施し、足の変化を観ることで、転倒予防に効果があるか検証することとした。	
判定	条件付承認	

受付番号26-8

申請者	看護師	内堀 愛
課題名	隔離を要する多飲症患者の開放時間延長への試み	
研究の概要	日常生活動作の意識を高めることで、多飲水が軽減し、開放時間延長へつなげることができるかの手がかりを検証する。	
判定	承認	

平成26年度第3回 倫理審査委員会

平成26年11月28日

受付番号26-9

申請者	内科医長	佐々木 恵理子
課題名	長期精神疾患療養者の耐糖能の変化 (加齢、病勢、投薬内容による比較)	
研究の概要	統合失調症などの精神疾患をもつ患者は、その生活習慣と服用する薬剤の影響により肥満しやすく、その結果、一般集団健診対象者と比して耐糖能が有意に低いことを、平成19年度の外来通院者対象調査でエビデンスとして得た。今回、前回の対象者を追跡し、加齢、病状の変化及び投薬内容の変化が耐糖能に及ぼす影響を検討するため、長期にわたり外来通院している患者の現在の検査値と平成19年度の検査値を比較検討する。	
判定	承認	